

総会用資料 I

平成 6 年度 事業報告

1. 第42回近畿地方会総会 平成 6 年 5 月 20 日 (金)
場 所: エルおおさか 参加者約 100 名
シンポジウム テーマ「近畿の事業場を巡って」
2. 第34回近畿産業衛生学会 平成 6 年 11 月 5 日 (土)
場 所: 住友金属工業 (株) 和歌山製鉄所 P R センター 参加者約 150 名
学会長: 茂原 治 (住友金属工業 (株) 和歌山製鉄所労務部健康管理センター)
3. 第 1 回評議員会 平成 6 年 5 月 20 日 (金)
場 所: エルおおさか
第 2 回評議員会 平成 6 年 11 月 5 日 (土)
場 所: 住友金属工業 (株) 和歌山製鉄所 P R センター
4. 第 1 回幹事会 平成 6 年 5 月 20 日 (金)
場 所: エルおおさか
第 2 回幹事会 平成 6 年 7 月 26 日 (火)
場 所: エルおおさか
第 3 回幹事会 平成 6 年 10 月 25 日 (火)
場 所: エルおおさか
第 4 回幹事会 平成 7 年 2 月 21 日 (火)
場 所: 松下厚生年金基金 松心会館
5. 近畿地方会ニュース (No.18) 発行 (平成 6 年 5 月 1 日)
近畿地方会ニュース (No.19) 発行 (平成 6 年 7 月 1 日)
近畿地方会ニュース (No.20) 発行 (平成 6 年 10 月 1 日)
近畿地方会ニュース (No.21) 発行 (平成 7 年 1 月 1 日)
6. 研究会活動
第 9 回職業性腫瘍研究会 (平成 6 年 10 月 7 日) 参加者: 14 名
場 所: 大阪府立成人病センター研究所
産業看護研究会 (平成 7 年 2 月 10 日)
場 所: 大阪産業保健推進センター
有機溶剤中毒研究会 (平成 7 年 2 月 17 日) 参加者: 35 名
場 所: 大阪市立大学文化交流センター
じん肺研究会 (平成 7 年 3 月 25 日) 参加者: 40 名
場 所: 大阪薬業年金会館

平成 7 年度 事業計画 (案)

1. 総会
第 43 回近畿地方会総会 (平成 7 年 5 月 26 日)
2. 学会
第 35 回近畿産業衛生学会 京都に於いて (平成 7 年 11 月 11 日)
学会長 田中健一 (京都工場保健会)
3. 地方会ニュース
(1) 近畿地方会ニュース (No.22) 発行 (平成 7 年 5 月)
(2) 近畿地方会ニュース (No.23) 発行 (平成 7 年 7 月)
(3) 近畿地方会ニュース (No.24) 発行 (平成 7 年 10 月)
(4) 近畿地方会ニュース (No.25) 発行 (平成 8 年 1 月)
4. 評議員会
(1) 第 1 回評議員会 (平成 7 年 5 月 26 日)
(2) 第 2 回評議員会 (平成 7 年 11 月 11 日)
5. 幹事会
(1) 第 1 回幹事会 (平成 7 年 5 月)
(2) 第 2 回幹事会 (平成 7 年 7 月)
(3) 第 3 回幹事会 (平成 7 年 10 月)
(4) 第 4 回幹事会 (平成 8 年 2 月)
6. 役員選挙 (平成 7 年 10 月投票予定)

総会用資料Ⅱ

平成6年度決算及び平成7年度予算(案)

項 目	平成6年度		平成7年度
	予 算 額	決 算 額	予 算(案)
収入の部			
前期繰越金	1,440,227	1,440,227	1,310,129
本部交付金	1,260,000	1,210,800	1,260,000
地方会費	1,342,000	1,598,000	1,600,000
役員選挙積立金解約利息	30,000	26,400	200,000
雑収入	0	33,500	30,000
収入合計	4,072,227	4,308,927	4,400,129
支出の部			
需要費			
印刷費	500,000	706,168	710,000
備品費	200,000	214,240	0
消耗品費	90,000	100,188	100,000
通信運搬費	910,000	588,476	700,000
地方会運営費			
総会費	100,000	32,950	50,000
学会費	200,000	200,000	200,000
幹事・評議員会費	80,000	97,870	100,000
研究会費			
研究会費	400,000	250,000	400,000(注1)
研修会等の補助費	150,000	0	90,000(注2)
事務局費	360,000	360,000	360,000
活動費			
学術担当活動費	200,000	99,910	100,000
広報担当活動費	200,000	42,009	100,000
理事担当活動費	100,000	70,000	100,000(注3)
役員選挙費用			500,000
別途積立金			
役員選挙積立	100,000	100,000	0
記念事業積立	100,000	100,000	100,000
予備費	282,227	0	690,129
諸雑費	100,000	36,987	100,000
次年度繰越金	0	1,310,129	0
支出合計	4,072,227	4,308,927	4,400,129

(注1) 5万円×8研究会 (注2) 3万円×3回 (注3) 本部理事会出席旅費補助5千円×4回×5名
財産目録(95年3月31日現在)

1. PC98コンピューター一式(本体、増設メモリー、レーザープリンター、ドットプリンター)
2. 積立金 定額郵便預金 2,400,000円(第50回記念事業積立金 2,200,000円 役員選挙積立金 200,000円)
なお選挙積立金は予算案成立により解約予定

選挙制度検討委員会の検討結果(最終)について

平成6年11月の評議員会での意見や幹事会の意見を踏まえ、再度検討した結果を報告します。

1. 地方会ニュース21号添付の選挙細則を原案の通り答申します。
2. ただし次の2点について細則の運用上の引継ぎ事項として答申します。
 - ① 会員の少ない県が不利にならないように、投票用紙配布時のお知らせなどに府県の偏りがないように配慮して投票するよう有権者の注意を喚起する。
 - ② 本部の役員の出選に関する細則によると地方会選挙管理委員会の発足は9月1日になるが委員の予定リストなどを総会などでアナウンスし、本部選挙管理委員会の指示にすみやかな対応できるよう準備する。

有機溶剤中毒研究会報告

寺本敬子（大阪市大・医・環境衛生）

有機溶剤中毒研究会は1995年2月17日（金）の午後2時から5時まで大阪市立大学文化交流センターにて開催され、出席者は35名であった。

はじめの話題は、金沢大学医学部衛生学教室助教授の谷井秀治先生による有機溶剤とその関連物質の定量的構造活性相関（QSAR）であった。

QSAR法は医薬品や農薬の薬効や毒性の推定に用いられてきた方法で、今回有機溶剤とその関連物質の作用機序解明や毒性の予測に有効であるという話であった。

QSARの目的は、(1)化学物質の構造と生物活性との関連をモデル化して合理的に説明、(2)毒性の予測と毒作用機構の推定の2つで、QSAR法の構成要素は、

- (1) 化学構造記述子（物理化学的性質、疎水性、電子的性質、立体記述子など）
- (2) 生物活性（生化学的、毒性学的影響など）
- (3) 相関を求める（Hanschの手法など）

の3つから成る。

QSAR法の適用例として、まず、先生の経験からニトリル類について化学構造記述子を疎水性、生物活性を急性毒性（LD50）を指標とし、CNの毒性を考慮に入れると両者は高い関連を示す。次いで、ケトン、芳香族炭化水素類、酢酸エステル、アルコール類の膜傷害性は化学構造記述子を疎水性、膜障害性を $\text{Na}^+/\text{K}^+\text{-ATPase}$ 活性を指標とし、立体構造を考慮に入れると両者は高い関連がある。さらに文献的に麻酔作用、皮膚吸収、生態毒性など多くのスライドを用いて、具体的に話された。今後毒性の予測にさらに発展するであろう分野であると感じた。

次の講師は（財）日本中毒情報センター、大阪中毒110番施設長、新谷茂先生で、まず、センターの概要（1986年厚生大臣の設立許可）から話された。

事業内容：中毒情報の収集と整備、問い合わせに対する回答、教育活動等6項目の多岐にわたる。

情報提供事業：化学物質、医薬品、動植物の毒によって引き起こされる急性中毒の情報の提供。

情報提供の対象：一般市民、医療機関等。

問い合わせ件数：一般市民から1日平均100件、医療機関から1日平均18件。

中毒起因物質：家庭用品、医薬品、農薬、自然毒の順。

ついで、本題の防水スプレー吸入による急性中毒—発端から近況まで—の話に移られた。第1例は1992年12月6日に受信した。その後1995年1月14日まで221件335例報告された。中毒の発生した使用条件等は、

- (1) 溶 剤：n-ヘプタン、n-ヘキサン、トリクロロエタン等。
- (2) 使用場所：車内、密閉、半開放、開放場所。
- (3) 本 数：1/2～4本。
- (4) 症 状：咳、嘔吐、呼吸困難、頭痛、胸痛、発熱等。
- (5) 処 置：入院の場合酸素吸入、点滴で完治。無処理の場合約2週間で症状消失。

中毒の発現はフッ素樹脂の粒子の大きさ、有機溶剤、防水剤、使用条件の4つの因子が関与しているとされた。防水スプレー吸入による急性中毒の問題点と課題として、

- (1) 症例を収集、評価して、対応するシステム
- (2) 製造物責任法
- (3) 家庭用品中毒情報の届出制度
- (4) 製造、品質保証と情報公開等の確立

を挙げられた。

この度、日本中毒情報センターの業務内容の概略と防水スプレー吸入による急性中毒の実態を知ることが出来た。

じん肺研究会報告

坂谷光則（国立療養所近畿中央病院）

平成6年度の第35回じん肺研究会は1995年3月25日（土）の午後2時から5時まで、大阪薬業年金会館で約40人の参加を得て開催された。

また、第1部の講演として、国立療養所近畿中央病院放射線主任技師の平島康雄先生が「良いじん肺X線写真を撮影する方法について」と題して、X線写真の鮮鋭度、粒状性、コントラスト等について、現像処理系、フィルムと増感紙系、撮影系に分けて、それぞれ詳しく説明していただいた。

次に審良正則先生（国立療養所近畿中央病院放射線科）から「じん肺のCT所見」と題して、石綿肺、珪肺、黒鉛肺、アルミニウム肺、溶接工肺のそれぞれのCTをスライドで示された。

第2部として、珪肺労災病院で毎年開催されているじん肺放射線撮影技術研修に、今年参加した富田林河内長野支所の三杉隆文先生から、研究内容を報告してもらったとともに、この研修会でX線写真の評価が良いとされた

ものの実物をシャカステンで供覧した。

辰巳佳次先生（新日鐵健康管理室長）からは、ロックウール及びセラミック繊維の製造法から健康管理の実際までを分かり易く説明していただいた。また参加者には、ロックウール及びセラミック繊維のサンプルが提供された。

最後に、ある医療機関から提出された胸部X線写真の質の評価をめぐって、演者との意見交換が行われた。

今回は、実地に即したテーマもあり、放射線技師の参加もあって盛会であった。

専門医資格認定試験

平成7年度専門医資格認定試験が本年8月26日、27日に行われます。詳細については、告示が産衛誌37巻（1995）A22に載っていますので参照してください。

平成6年度 第4回幹事会

日 時：平成7年2月21日（火）午後4時～7時

場 所：松心会館（門真市）さつき1号室（1階）

出席者：藤木、圓藤、徳永、河合、西山、中野、宮上、

上田、小泉、岡田

欠席者：堀口、武田、近藤、原田、樹屋

事務局：南、大原

1. 理事会報告

2. 役員選挙

地方会ニュース21号に選挙細則改正案を同封し会員に意見を求めたが、提案はなかった。11月の評議員会での意見を踏まえ次回評議員会、総会に提案できるように選挙制度検討委員会で最終案をまとめてもらう。

3. 第43回近畿地方会総会

5月26日 松心会館（門真市）での開催を決定。総会シンポジウムのテーマは、（地方会ニュース21号で会員に意見を求めたが反応はなかったこともあり）学術担当幹事に一任した。

4. 第35回近畿産業衛生学会

平成7年11月11日（土）、開催地は京都で、学会長は田中健一先生（京都工場保健会）とすることを幹事会として承認した。

5. 平成6年度事業報告および会計報告、平成7年度事業計画案および予算案を検討した。

~~~~~

## 第35回近畿産業衛生学会開催（予定）の

### お知らせ（第1報）

主 催 日本産業衛生学会近畿地方会  
 後 援 京都府医師会  
 学会長 田中健一（財団法人京都工場保健会顧問）  
 日 時 1995年11月11日（土）9：15～16：30  
 会 場 京都市中小企業会館  
 〒615 京都市右京区西院東中水町17番地（西大路五条下ル東側）  
 ☎ 075(314)7171

▶メインテーマ 産業保健の展望 — 21世紀へかけて —

▶特別講演 Job Satisfactionの意味するもの

大阪大学教授 森 本 兼 曩

▶パネルディスカッション

産業保健の現況と明日への期待

司会 関西医大教授 徳 永 力 雄

- ▶演題募集要項 演題締切日 7月31日  
抄録締切日 8月31日

発表ご希望の方は同封の申込用紙に演題名、発表者名、所属、連絡先を明記し、学会事務局（京都工場保健会）へ申し込んで下さい。なお、発表者（共同発表者も含む）は、日本産業衛生学会の会員であることが条件です。現在会員でない方が発表される場合は、早急に入会手続きをお済ませ下さい。

- ▶学会事務局 〒604 京都市中京区西ノ京北壺井町67番地  
京都工場保健会労働衛生部内  
第35回近畿産業衛生学会事務局  
(担当 高田志郎、鶴飼博彦)  
☎ 075(823)0528 (直通) FAX 075(802)0129

### 事務局からのお知らせ

本年秋に次期役員選挙（平成8年～10年任期）が行われる予定です。学会本部の『役員選挙に関する細則』によれば、本年の7月31日までに本部会費を全納しないと選挙権および被選挙権を失うことになっています。（なお選挙権および被選挙権について地方会費の納入の有無は関係なし）また地方会の役員選挙も本部役員選挙と同時にかつ同様の方法で選出する（近畿地方会会則第7条）ことになっていますので、本年の7月31日までに本部会費を全納しないと地方会の役員選挙についても選挙権および被選挙権を失うことになっています。以上より本年本部会費については7月31日までに納入いただきますようお願いいたします。

### 投稿募集

地方会ニュースでは、記事を募集しています。会員の情報交換、コミュニケーションをはかるもの、旅行記をはじめとする体験談など、ジャンルはこだわりませんので、お気軽に御投稿ください。一行25文字1000字以内程度でお願いします。

毎年度5月1日、7月1日、10月1日、1月1日の年4回発行予定です。原稿の締め切り発行日の約1カ月前を予定しています。なおニュース各号の最終面に次号の発行日と原稿締切日を掲載しています。

### 事務局からのお願い

- (1) 地方会費納入のお願い
- ① 地方会費は、2000円です。同封の振込用紙で郵便局から払い込んでください。  
口座番号は 00980-6-120808  
加入者名：日本産業衛生学会近畿地方会
  - ② 振込人と会員名が異なるときは必ず通信欄に会員名をご記入ください。
  - ③ 経費節減のため事務局が領収書の送付はご容赦ください。振込用紙の領収書をご利用ください。
  - ④ 総会当日、地方会費の納入を受け付けます。ご利用ください（地方会から領収書を発行します）。
- (2) 評議員会、総会の出欠葉書、委任状返送のお願い  
同封の葉書は5月10日までにご投函お願いします。

### 編集後記

現在の広報委員でニュースを発行して2年が経過しました。この間に紙面は充実しましたが、会員からの投稿は、あまりありませんでした。決算報告や予算案に示されるように、地方会ニュースの作成や送付には大きな金額が使用されています。この有効活用のためにも、本年はたくさんの投稿をいただけますようお願いいたします。  
(宮上)

編集・企画担当者

(広報担当幹事・事務局員)

武田真太郎, 上田美代子, 近藤雄二, 河合俊夫

宮上浩史, 南 勉, 大原昭男

次回発行日 1995年7月1日

次回原稿締切日 1995年6月1日